

サ高住における認知症と看取り対応事例 その①

高齢化が急速に進む中で「認知症」「看取り」は避けては通れないものになっています。サービス付き高齢者向け住宅の場合、特定施設のように人員配置も手厚くなく、特に夜間は1名による宿直体制のケースも多く散見されます。しかし、入居を考える高齢者やそのご家族は、介護が必要にな

ってはいじめて入居を検討されることも多く、過剰に期待されている場合もあるのではないのでしょうか？

今回の介護報酬改定では、「中重度の要介護者」と「認知症高齢者」「看取り期における対応の充実」等への支援に対し重点的に対応を強化し、地域包括ケアシステムを充実させ、住み慣

MMPG介護塾

経営診断のプロが
アドバイス 第111回

MMPG会員紹介

株式会社 佐々木総研
代表取締役 佐々木 大
福岡県北九州市。1986年設立。医療・福祉・介護を中心に、地域に根差したワンストップのコンサルティングに定評がある。



筆者紹介(長 幸美)
福岡県出身。経営コンサルティング部経営支援課、シニアコンサルタント。20年の病院勤務経験を活かした医療・介護にまつわる様々な相談に従事。

株式会社佐々木総研 代表取締役 佐々木 大(ささき はじめ)

孤独の解消が認知症予防に

れた地域で出来るだけ長く住み続けることができるよう誘導がなされました。今後は益々、これらへの対応について注力していかねばなりません。今回は、あるサ高住での認知症高齢者への対応事例を踏まえて、そのあり方について考えてみたいと思います。

福岡県のあるサ高住では、「認知症」の方は少ない人員配置での対応が難しいと判断し、「物忘れ程度の方は受け入れるが、症状が進行したら退去していただく」という方針のもと運営していました。

そのサ高住に入居したAさんは、入居当初は軽い物忘れ程度でしたが、入居後すぐに認知症が進行、「物忘れがひどい」「物忘れがひどい」「物忘れがひどい」が起り、職員が攻撃の対象となっていました。職員はすこま、デイサービスの利用先を遠方に変更。ご家族が集まれるイベントで家族や他の入居者との共有する時間をつくるにつれて、徐々に落ち着きを取り戻し、今では表情豊かに日々を過ごされているとのこと。

福岡県のあるサ高住では、「認知症」の方は少ない人員配置での対応が難しいと判断し、「物忘れ程度の方は受け入れるが、症状が進行したら退去していただく」という方針のもと運営していました。

そのサ高住に入居したAさんは、入居当初は軽い物忘れ程度でしたが、入居後すぐに認知症が進行、「物忘れがひどい」「物忘れがひどい」「物忘れがひどい」が起り、職員が攻撃の対象となっていました。職員はすこま、デイサービスの利用先を遠方に変更。ご家族が集まれるイベントで家族や他の入居者との共有する時間をつくるにつれて、徐々に落ち着きを取り戻し、今では表情豊かに日々を過ごされているとのこと。

そのサ高住に入居したAさんは、入居当初は軽い物忘れ程度でしたが、入居後すぐに認知症が進行、「物忘れがひどい」「物忘れがひどい」「物忘れがひどい」が起り、職員が攻撃の対象となっていました。職員はすこま、デイサービスの利用先を遠方に変更。ご家族が集まれるイベントで家族や他の入居者との共有する時間をつくるにつれて、徐々に落ち着きを取り戻し、今では表情豊かに日々を過ごされているとのこと。

そのサ高住に入居したAさんは、入居当初は軽い物忘れ程度でしたが、入居後すぐに認知症が進行、「物忘れがひどい」「物忘れがひどい」「物忘れがひどい」が起り、職員が攻撃の対象となっていました。職員はすこま、デイサービスの利用先を遠方に変更。ご家族が集まれるイベントで家族や他の入居者との共有する時間をつくるにつれて、徐々に落ち着きを取り戻し、今では表情豊かに日々を過ごされているとのこと。

そのサ高住に入居したAさんは、入居当初は軽い物忘れ程度でしたが、入居後すぐに認知症が進行、「物忘れがひどい」「物忘れがひどい」「物忘れがひどい」が起り、職員が攻撃の対象となっていました。職員はすこま、デイサービスの利用先を遠方に変更。ご家族が集まれるイベントで家族や他の入居者との共有する時間をつくるにつれて、徐々に落ち着きを取り戻し、今では表情豊かに日々を過ごされているとのこと。

そのサ高住に入居したAさんは、入居当初は軽い物忘れ程度でしたが、入居後すぐに認知症が進行、「物忘れがひどい」「物忘れがひどい」「物忘れがひどい」が起り、職員が攻撃の対象となっていました。職員はすこま、デイサービスの利用先を遠方に変更。ご家族が集まれるイベントで家族や他の入居者との共有する時間をつくるにつれて、徐々に落ち着きを取り戻し、今では表情豊かに日々を過ごされているとのこと。